

長崎県インフラDXアクションプラン

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を活用して業務や仕組みを変革することです。

建設業においても少子高齢化が進む中、限られた人員でインフラ整備や維持管理、災害対応を行うため、**インフラ分野のDX**の取組は必要です。

そのため、県内建設業の生産性向上の目標や目指す姿を示し、官民一体となって目指していくべき**DX**の道しるべとして、「**長崎県インフラDXアクションプラン**」を策定しています。（第0版：令和6年12月策定、第1版：令和8年2月改定）

インフラDXアクションプランの構成

アクションプランは全6章となり、
◎「**インフラ分野のDXの取組**」
◎「**災害対応におけるDXの取組**」
の2つの柱で構成されております。

詳しくは長崎県HPに掲載している全体版をご覧ください。▶



第一章	総論
第二章	目指す姿と取組体系
第三章	インフラ分野のDXの取組
第四章	災害対応におけるDXの取組
第五章	その他の取組
第六章	重点項目 KPI(重要業績評価指標)



DXの取組事例



ICT技術研修

ICT技術の普及



走行画像計測

トンネル点検の効率化



立会官

←申請者

査定官

デジタル技術を活用した災害査定

重点項目

ICT活用工事
の実施件数

令和12年度までに
『年間250件実施』

情報共有システム
の活用割合

令和12年度までに
『年間8割達成』

インフラ点検で活用する
デジタル技術数

令和12年度までに
『累計18技術』

インフラDXアクションプラン（第1版）の主な改定内容

3次元測量の推進

3次元による地形測量を推進する項目を新たに追加

- 令和8年度：3次元地形測量の要領策定・試行
- 令和9年度：3次元地形測量の原則化

Before
(現状)



After
(効果)



3次元設計データの利用（BIM/CIM）

3次元設計データの利用を推進するため、BIM/CIMの取組を明確化

- 令和8年度：BIM/CIM要領策定・試行

Before
(現状)



After
(効果)



大規模災害対応の効率化

大規模災害対応時の効率化を目指し、デジタル技術を活用した取組を具体化

- 令和8年度：官民一体の情報共有体制を構築

Before
(現状)



After
(効果)



官民が連携し、建設業のDX実現に向け、できるところから **積極的にチャレンジ** していきます！

アクションプランやインフラDXに関するお問い合わせはこちら

